

MySQL 5.1.49 リリースノート（日本語翻訳）

InnoDB に関する注意事項:

- InnoDB Plugin は、バージョン 1.0.10 にアップグレードされている。本バージョンは、General Availability (GA) の品質であるとみなされている。

今回のリリースでは、InnoDB Plugin は、RHEL3、RHEL4、SuSE 9 (x86、x86_64、ia64)、Linux RPM 汎用パッケージ、および icc コンパイラで生成されたビルドを除き、ソースおよびバイナリディストリビューションに含まれている。また、FreeBSD 6 と HP-UX、および ia64 全般の Linux では動作しない。

修正されたバグ:

- **セキュリティ修正:** innodb_file_format または innodb_file_per_table 構成パラメータの値を変更すると、DDL ステートメントによってサーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#55039](#))。
- **セキュリティ修正:** ユニーク [SET](#) カラム付きのテーブルを伴う結合は、サーバのクラッシュを引き起こす可能性があった ([Bug#54575](#))。
- **セキュリティ修正:** [IN\(\)](#) または [CASE](#) 演算で、NULL 引数が明示的に引数として渡されるか ([IN\(\)](#) の場合)、WITH ROLLUP 修飾子によって暗黙的に生成されると ([IN\(\)](#) および [CASE](#) の場合)、NULL 引数の不正な処理によってクラッシュが発生する可能性があった ([Bug#54477](#))。
- **セキュリティ修正:** [BINLOG](#) ステートメントに不正な引数を使用すると、Valgrind 警告またはサーバのクラッシュが発生する可能性があった ([Bug#54393](#))。
- **セキュリティ修正:** NULL 可能なカラムがあるテンポラリ [InnoDB](#) テーブルを使用すると、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#54044](#))。
- **セキュリティ修正:** [HANDLER](#) インタフェースを使用してテーブルの 2 つのインデックスから交互に読み取りを行うと、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#54007](#))。
- **セキュリティ修正:** SELECT ... UNION ... ORDER BY (SELECT ... WHERE ...) という形式のクエリで [EXPLAIN](#) を使用すると、サーバがクラッシュする可能性があった ([Bug#52711](#))。
- **セキュリティ修正:** [LOAD DATA INFILE](#) は SQL エラーをチェックせず、エラーがすでにレポートされていても OK パケットを送信した。また、デバッグサーバでは、

- クライアントサーバプロトコルのチェックに関連する表明が、発生すべきでないときに発生することがあった ([Bug#52512](#))。
- **InnoDB ストレージエンジン:**InnoDB プラグインの急速にインデックスを作成すると失敗し、2つめの新しいインデックスが壊れる状態になる場合がある ([Bug#54330](#))。
 - **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションで NULL カラムのユニークキーを使用した場合、スレーブは更新の実行時に間違っただ行を選択することがあった。そのようなカラムにユニークキーがあるテーブルは、ユニークキーによって使用されるカラムに対して NULL を含む複数の行を持つ可能性があり、スレーブはそのカラムに NULL が含まれている最初の行を単に選択したため、この問題が発生した ([Bug#53893](#))。
 - **レプリケーション:** [FLUSH LOGS](#) は、環境によってはサーバをクラッシュさせる可能性があった。I/O スレッドは別のスレッドが [FLUSH LOGS](#) を実行しているときにリレーログ I/O キャッシュに同時にアクセスできたため、この問題が発生した。[FLUSH LOGS](#) は、リレーログを閉じて再度開きながら I/O キャッシュを初期化（または再初期化）する。この問題により、他のスレッド（この場合は I/O スレッド）が I/O キャッシュに同時にアクセスしている場合は問題が発生する可能性があった。

現在、[FLUSH LOGS](#) を実行するスレッドは、リレーログを実際にフラッシュする前にリレーログのロックを取得するようになっている ([Bug#53657](#))。

[Bug#50364](#) も参照。

- **レプリケーション:** MySQL 5.1.37 で行われた修正により、テンポラリテーブルとトランザクションに関わる 2 つの関連する問題がもたらされた。
 1. トランザクション内でテンポラリテーブルを作成または削除すると、[CREATE TEMPORARY TABLE](#) または [DROP TEMPORARY TABLE](#) ステートメントの後の失敗したステートメントは後退復帰をトリガした。これにより、スレーブがマスタから分化された。
 2. トランザクショナルストレージエンジンを使用しているテーブルだけが使用されるトランザクション内で [CREATE TEMPORARY TABLE ... SELECT * FROM ...](#) ステートメントが実行され、そのトランザクションが最後に後退復帰された場合、変更内容（テンポラリテーブルの作成を含む）はバイナリログに書き込まれなかった。

現在の修正では、上記の両方のケースで正しい動作が復元される ([Bug#53560](#))。

この退化は、[Bug#43929](#)によってもたらされた。

- レプリケーション: [CURRENT_USER\(\)](#)または [CURRENT_USER](#) を使用して、影響を受けるユーザまたは定義者の名前とホストを [DROP USER](#)、[RENAME USER](#)、[GRANT](#)、[REVOKE](#)、または [ALTER EVENT](#) ステートメントで指定した場合、[CURRENT_USER\(\)](#)または [CURRENT_USER](#) の参照は、バイナリログへの書き込み時に展開されなかった。その結果、[CURRENT_USER\(\)](#)または [CURRENT_USER](#) はスレーブ上のスレーブ SQL スレッドのユーザとホストに展開されたため、レプリケーションは中断された。現在、そのようなケースでは、[CURRENT_USER\(\)](#)および [CURRENT_USER](#) はバイナリログに書き込まれる前に展開されるため、マスタとスレーブの両方で正しいユーザとホストが参照されるようになっている ([Bug#48321](#))。
- [ALTER TABLE](#) ステートメントは、InnoDB 圧縮テーブル (row_format=compressed) を元の未圧縮のテーブル (row_format=compact) に変換する可能性があった ([Bug#54679](#))。
- SIGUSR1 のシグナルハンドラ再定義は削除された。アクティブなスレッドが数多く存在する場合、この再定義を使用すると、Solaris 上のサーバでカーネルデッドロックが発生する可能性があった。場合によっては、他の POSIX プラットフォームも影響を受けることがあった ([Bug#54667](#))。
- innodb_file_per_table=ON の設定のもとでテーブルが作成され、innodb_file_per_table=OFF の設定のもとでサーバが再起動された場合、InnoDB は起動時に不正なメッセージを発行する可能性があった。そのメッセージは、InnoDB: Warning: allocated tablespace n, old maximum was 0 という形式だった ([Bug#54658](#))。
- *make* の make_binary_distribution ターゲットは、生成される行がシェルにとって長すぎたため、一部のプラットフォームで失敗する可能性があった ([Bug#54590](#))。
- サーバが長さゼロのいくつかのタプルのソート順序を無視しなかったため、表明違反が発生した ([Bug#54459](#))。
- [myisam_max_extra_sort_file_size](#) のデフォルト値が最大許容値よりも高くなり、その結果、サーバ起動時に警告が表示される可能性があった ([Bug#54457](#))。
- [SHOW](#) ステートメントと INFORMATION_SCHEMA クエリ間の関係の一貫性のないチェックにより、INFORMATION_SCHEMA クエリが失敗することがあった ([Bug#54422](#))。
- セッションが、別のセッション内の [HANDLER](#) で開かれたテーブルを含むデータベースを削除しようとした場合、そのセッションによって実行された DATABASE ステートメント (CREATE、DROP、ALTER) はデッドロックを生成した ([Bug#54360](#))。

- struct NET の要素が欠けていたため、埋め込み [mysqld](#) のビルドが失敗した ([Bug#53908](#)、[Bug#53912](#))。
- [my_sys.h](#) 内の MY_INIT マクロの定義には無関係なセミコロンが含まれていたため、コンパイルが失敗する可能性があった ([Bug#53906](#))。
- C API 関数の [mysql_stmt_prepare\(\)](#) と [mysql_stmt_execute\(\)](#) の間で接続が失われた場合、自動再接続が有効になっているクライアントには Lost connection to MySQL server during query というエラーメッセージが表示された。ただし、[mysql_stmt_errno\(\)](#) は、対応するエラー番号 2013 ではなく 0 を返した ([Bug#53899](#))。
- インデックス付きカラムで [MIN\(\)](#) または [MAX\(\)](#) を使用するクエリは、正しく最適化されない可能性があった ([Bug#53859](#))。
- SELECT および SELECT FOR UPDATE ステートメントの組み合わせの中には、ロックに関するエラーを発生して失敗したり、[半一貫的な読み取り](#) 操作中に行ロックを不正に解放したりするものがあった ([Bug#53674](#))。
- ストアドルーチンの場合、スロークエリログの Lock_time 値は負の値だった ([Bug#53191](#))。
- 一部の ORDER BY ... DESC クエリの結果は、正しくソートされなかった ([Bug#51431](#))。
- 3 つのインデックス間のインデックスマージは、不正な結果を返す可能性があった ([Bug#50389](#))。
- 数多くの [RENAME TABLE](#) ステートメントを実行すると、メモリが過剰に使用された ([Bug#47991](#))。
- サーバは、長すぎてメモリに収まらないクエリの解析時にメモリ不足エラーでクラッシュする可能性があった。現在、パーサは、そのようなクエリを拒否して [ER_OUT_OF_RESOURCES](#) エラーを発生するようになっている ([Bug#42064](#))。
- 最初のテーブル以外の結合テーブルに対する Sort-index_merge は、過剰にメモリを使用した ([Bug#41660](#))。
- REDO ログのスペースが十分にあるかどうかをチェックするメカニズムが改良され、ERROR: the age of the last checkpoint is x, which exceeds the log group capacity y というメッセージが発生する可能性が減少した ([Bug#39168](#))。
- InnoDB compare_record() 関数における Valgrind 警告が修正された ([Bug#38999](#))。
- SSL を使用した場合、[mysqld](#) は実行中に失敗する可能性があった ([Bug#34236](#))。
- RPM アップグレードインストールの動作が変更されている。RPM パッケージを使用したアップグレードインストールでは、アップグレードが行われるときに MySQL サーバが動作している場合、サーバが停止され、アップグレードが行われて、サーバが再起動される。RPM アップグレードが行われるときにサーバがまだ動作していない場合は、アップグレードの終了時にサーバは起動されない。MySQL のブート

スクリプトは/etc 内の該当ディレクトリにインストールされるため、MySQL サーバは次回のマシン再起動時に自動的に再起動される ([Bug#27072](#))。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。